

インフラメンテナンス国民会議九州 令和元年度の活動報告

日野伸一¹、池田喜輝²

大分工業高等専門学校¹、株式会社福山コンサルタント²

概要： 現在、我が国のインフラは急速な老朽化が進み、維持管理費の増大、将来的な担い手不足等様々な問題が生じている。そこで、九州地方のインフラメンテナンスにおいて、民間企業の多様な技術に対し、地方自治体のニーズとのマッチングを行い、課題解決策を見出すことが本フォーラムの目的である。本年度は地方イベントや市民向けイベント等を新たに実施し、インフラメンテナンスに関する知名度・理解の向上を図った。

1. はじめに

高度経済成長期に集中的に整備された我が国のインフラは、老朽化が今後急速に進むことが懸念されており、人口減少や財政的制約がますます厳しくなる中で、いかにインフラの維持管理・更新に取り組んでいくかが喫緊の課題となっている。特に、若い世代の人口流出に悩む地方自治体においては、インフラの維持管理を支える建設産業や若い担い手の確保等、社会的な問題として取り組む必要性が求められている。

このような背景から、インフラメンテナンスに産官学民が一体となって取り組む体制をつくり課題解決やイノベーション推進を図るプラットフォームとして、平成 28 年 11 月にイン

フラメンテナンス国民会議が設立された。具体的な取組み目標として、①革新的技術の発掘と社会実装、②企業等の連携の促進、③地方自治体への支援、④インフラメンテナンスの理念の普及、⑤インフラメンテナンスへの市民参画の推進、の 5 項目が掲げられている。

それを受けて、インフラメンテナンス国民会議の公認フォーラムとして、「インフラメンテナンス国民会議 九州フォーラム」(以下、九州フォーラムと称する)を平成 30 年 1 月 17 日に設立し、現在に至る。本稿では、九州フォーラムの令和元年度における活動状況を報告する。

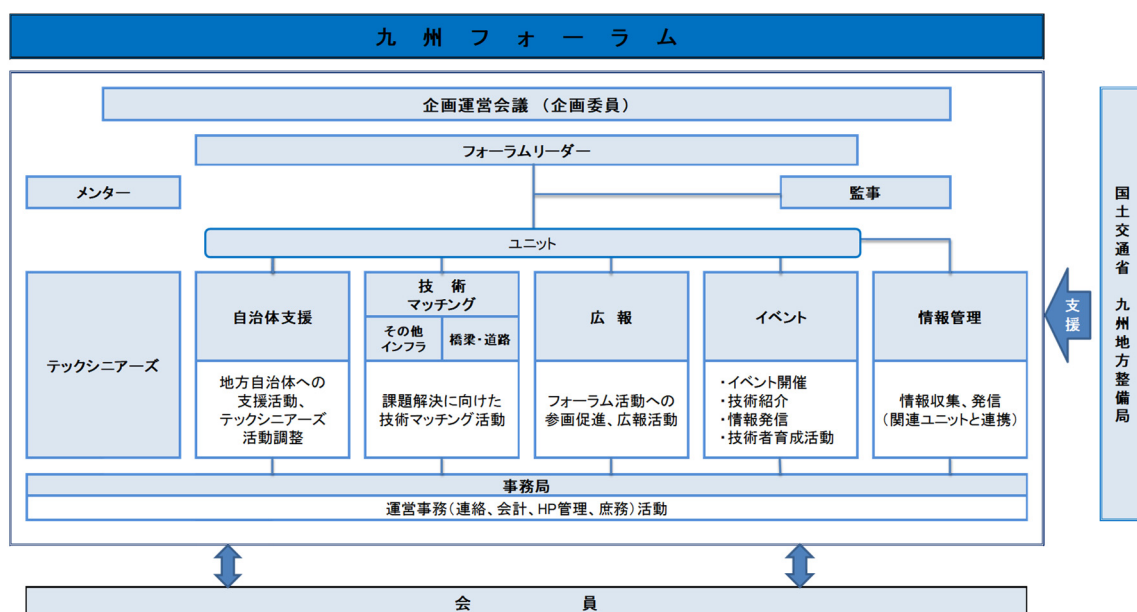
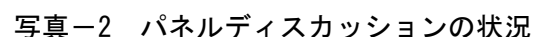


図-1 令和元年度 九州フォーラム組織体制図

九州フォーラムでは、産官学民の連携を軸にして、九州におけるインフラメンテナンスに関する自治体支援や技術開発の推進に向けた情報交換、ベストプラクティスの水平展開、取り組みのマッチングによる課題解決策の構築などについて、活動を展開している。

初年度は、福岡市内にてピッチイベントを開催したが、鹿児島県、宮崎県などの自治体のように遠方からの参加や、地域に根ざしたイベン



トの企画による、多地域への活動展開が課題であった。そこで、ピッチイベントの第二弾として、令和元年7月30日に大分市で「第二回ピッチイベント～ピッチイベント in おおいた 2019～」を開催した。第二回ピッチイベントの案内を図-2、ピッチイベントの状況を写真-1, 2 に示す。本イベントは地域に根ざしたイベントを目的とし、大分県内の関係機関（大分河川国道事務所、大分県、大分市、大分県建設業協会、大分県測量設計コンサルタント協会）を中心に実行委員会を組織して準備が進められた。また、テーマについては大分河川国道事務所、大分県が県内全自治体へ直接ヒアリングし、その中から複数意見をテーマとして以下とおり選定した。

テーマ①. 橋梁点検の効率化技術

テーマ②. インフラ管理に関する課題の具体化・共有化

テーマ①では、技術的なテーマとして九州地方整備局道路部より道路橋点検の効率化技術の現状を説明するとともに、2自治体(国東市、日田市) からメンテナンスの取組状況やニーズの発表、企業等からの各ニーズに対するシーズの提案が行われ、ファシリテーターを中心にパネルディスカッション形式で討議を行った。

テーマ②では、運営課題的なテーマとして2自治体(大分市、宇佐市) の課題を国・県にて共有するとともに、テーマ①と同様にファシリテーターを中心にパネルディスカッション形式で討議を行った。

当日の参加者については、185名であり、会場規模により、人数制限が必要となるほど盛況であった。特に、県内自治体への事前ヒアリングが功を奏し、全18自治体のうち、17自治体の参加が得られ、インフラメンテナンスに関する課題、問題点を共有することができた。

今回の大分でのイベントを皮切りに、今後、九州内の各県においてピッチイベントを開催する予定である。

図-3 第三回ピッチイベントの案内



写真-3 第三回ピッチイベントの状況



写真-4 グループ討議の状況

2) 第三回ピッチイベント

ピッチイベントの第三弾として、令和元年10月9日に福岡市で「第三回ピッチイベント～ニーズとシーズ マッチングの萌芽～」が開催された。本イベントは九州建設技術フォーラム2019と同時開催とした。第三回ピッチイベントの案内を図-3、ピッチイベントの状況を写真-3,4に示す。

本イベントは九州地域の特性を考慮した2テーマに加え、第一、二回イベントで好評を得た「インフラ管理に関する課題の具体化・共有化」の3テーマにてグループ討議を実施した。また、テーマ③については、後述に示す自治体支援組織「シニア・テックグループ（現、テックシニアーズ）」を含め討議を行い、課題、問題点の共有化を図った。

テーマ①. 温度制御が可能となる橋面舗装の技術（熊本県）

テーマ②. 石橋の点検・診断及び補修技術（八代市）

テーマ③. インフラ管理に関する課題の具体化・共有化（シニア・テックグループ（仮称）の設立を含めて）

当日の参加者については、169名であり、うち国及び地方自治体からの参加者は30%程度であった。前回に比べ、少数であるものの宮崎県、鹿児島県等遠方からの出席もあり、当フォーラムの知名度が向上したものと考えられる。

(2) テックシニアーズの設立

中小規模の地方自治体が取り組む公共インフラ老朽化対策は、実施にあたって、例えば、財源の確保、体制づくり（人材育成）、対策の基本計画・行動計画の策定、継続的なマネジメントの実施、その他（技術の育成、外部情報の収集）等、自治体単独では十分な対応が困難な場合が多い。

一方で、当フォーラムでは組織体制に「自治体支援ユニット」を設け、自治体が抱える様々な課題に対して、その解決に向けた支援を行う

表-1 テックシニアーズ資格要件

公的資格	実務年数	職歴	現在の立場
博士(工学) 技術士(総合技術監理部門) 技術士(建設部門)(水道部門) 鋼構造及びコンクリート/土質及び基礎/河川及び砂防/トンネル/港湾及び空港/トンネル/道路/海岸・海洋 道路橋点検士 コンクリート診断士 コンクリート構造診断士 土木鋼構造診断士 RCCM (上記、技術士に求める該当分野) 特別及び上級土木技術者 海洋・港湾構造物維持管理士 特定道守及び道守コース 構造物の補修・補強技士 一級構造物診断士	20年以上の経験を有すること	橋梁等の土木構造物を対象にした、維持管理計画、点検診断、補修計画、補修設計、材料選定、補修・補強の施工等の職歴があること。	原則として、常勤で民間企業等に所属していないこと。

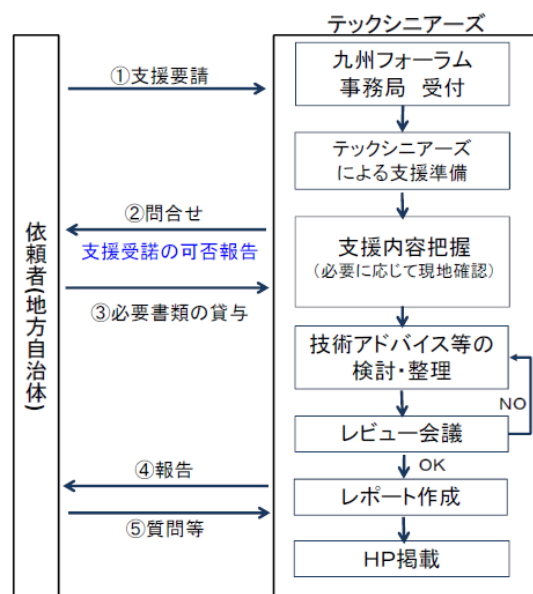


図-4 支援の基本的な流れ

こととしているが、具体の支援活動が十分に実施できていないのが現状である。

そこで、これらの状況を踏まえ、現役を卒業した実務経験豊富な技術者達が集い、ボランティア活動の一環として地方自治体からの様々な相談に対して、中立的立場で技術アドバイスをを行い、自治体支援の一助となることを目的に「テックシニアーズ」を設立し、令和2年4月1日より活動を開始した。テックシニアーズの資格要件を表-1、支援の基本的な流れを図-4に示す。当グループでは、推進責任者として、防災構造工学研究所の川神雅秀代表、九州大学名誉教授の大塚久哲氏が担当している。

(3) 市民参加イベントの実施

インフラメンテナンス国民会議の取組み目標の一つとして、市民参画の推進が掲げられている。その一環として、「土木の日」行事にあわせ、令和元年11月17日に市民参加イベントとして、福岡県内の親子9組を迎え「キッズリポーター体験～都市高速道路を守る仕事を追え～」を実施した。キッズリポーター体験の案内を図-5、キッズリポーターの実施状況を写真-5, 6に示す。

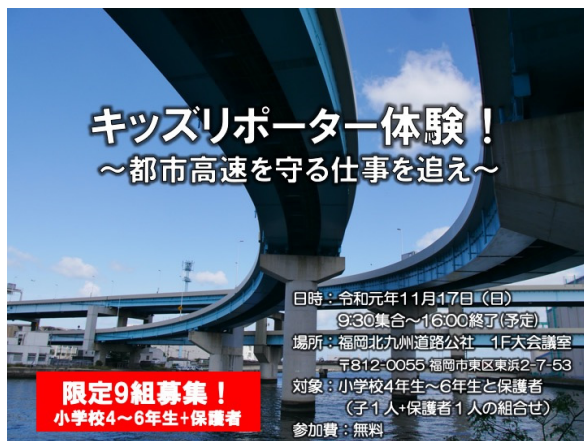
当イベントでは、参加者に高速道路の現場リポートを体験することで、インフラメンテナンスの魅力、重要度を体感してもらうことを目的とし、福岡北九州高速道路公社の協力のもと、小学生がリポーター、保護者がディレクターとなり、3つのケース（補修施工現場、点検現場、交通管制）に分かれ、リポーター体験を実施した。リポートした動画は九州フォーラム HP 及び YouTube に公開し、1000 回以上の再生回数を記録した。

イベントを通して参加者から、「①見る、体験するだけでなく、リポートという「アウトプット」まで行うことが出来て良かった」、「②土木に対するイメージが良くなった」などの意見があり、インフラメンテナンスに対する理解の向上を図ることができた。

4. 今後の活動予定と課題

今後も、九州フォーラムの活動として、インフラメンテナンスに関わる地方自治体支援や、オープンイノベーションによるメンテナンス技術の発掘、マッチングによる課題解決などに積極的に取り組んでいく予定である。

現在、インフラメンテナンス国民会議への地方自治体の参画状況は、全国では約4割に対して、九州では約5割と高い参画状況にある。今後は全国の更なる会員拡大に向け勧誘活動を進めていく必要がある。そのためにも、「ピッチイベントおおいた」のように、九州での活動が特定の地域に偏ることなく、九州各県でのイベ



キッズリポーター体験！
～都市高速を守る仕事を追え～

日時：令和元年11月17日（日）
9:30集合～16:00終了（予定）
場所：福岡北九州道路公社 1F大会議室
〒812-0055 福岡市東区東浜2-7-53
対象：小学校4年生～6年生と保護者
（子1人+保護者1人の組合せ）
参加費：無料

限定9組募集！
小学校4～6年生+保護者

あたりまえの毎日を守る職場に潜入取材
市民は普段入ることのできない都市高速道路の補修現場や交通管制室に保護者同伴で小学生が潜入します。小学生はリポーター、保護者はプロデューサー。プロのカメラマンと一緒に現場の様子や、インタビュー状況を撮影しながら、ニュース動画を完成させます。完成したニュースはHPなどで公開予定です。

申し込み方法
申し込みは電子メールにて11/7（必着）までをお願いします。抽選の結果は当選者のみ返信します。
インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム
（担当青柳：前田建設工業㈱）
＜E-Mail：aoyagi.k@city.maeda.co.jp＞ **またとない学びをあなたに！**

主催：インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム
協力：福岡北九州高速道路公社

図-5 イベント案内



写真-5 イベント打合せ状況



写真-6 現場リポート状況

ント実施および拠点形成に努め、各地域での草の根運動的な普及活動を図る必要がある。そのためには、各県庁、国の道路・河川・港湾などの各事務所および地域の大学・高専の学識経験者であり、彼らに参加協力を求めるとともに、既存の道路メンテナンス会議や地域のボランティア組織との連携を強化推進していく必要がある。加えて、継続的な活動展開のためには、安定的な財源確保が最大の課題でもある。

終わりに

少子高齢化時代を迎え、国および地方自治体の財政状態もますます厳しさを増す中、インフラマネジメントに対する国民一人一人の理解を得て、産官学民の連携によるインフラマネジメントに取り組むという国民会議の精神がきわめて適切かつ重要であるということは誰もが認めるところである。九州は、これまで歴史的にも産官学の連携による学協会活動や市民活動が活発に展開してきたという風土がある。是非とも、九州の産官学民の連携をより一層強化し、インフラマネジメントを通じて安全・安心で、豊かな未来を子孫に残せるよう、各位のご理解、ご協力を切望するものである。

最後に、インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムの活動に参加、協力を戴いた、企画委員の各機関および会員の方々、そして公益事業の一環として助成金をご提供戴いた、(一社)九州建設技術管理協会に対し、深甚ある謝意を表する次第である。

参考文献

1) インフラメンテナンス国民会議ホームページ：

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/im/about/kaiin_list.html (2020. 4)